

# 夏の自然体験活動・キャンプ事業に 関する事後実態調査

2020年10月版



NCAJ

National Camping Association of Japan

公益社団法人日本キャンプ協会

National Camping Association of Japan

協力団体



J.E.E.F

Japan  
Environmental  
Education  
Forum  
日本環境教育フォーラム



活体自然  
動験然

Council for Outdoor & Nature Experiences

CONE

自然体験活動推進協議会



一般社団法人

日本アウトドアネットワーク

# 調査の目的及び概要

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、全国各地の団体が、キャンプ事業の中止や延期を余儀なくされ、経済的に大きなダメージを受けたことは、いくつかの調査で明らかになっています。

感染の再流行があったこの夏の事業に焦点を当てて調査をすることで、秋以降や来年度への参考資料として、全国の施設・団体の夏の事業実施の実態を調査し、共有することを目的に本調査を実施しました。

**調査対象** : 日本全国の「自然体験活動やキャンプ事業」を実施する団体・施設

**調査方法** : Google Formを用いたウェブアンケート

- 協会所属団体や下記の協力団体にメールにてアンケートフォームのURLを送付
- 協会SNSなどで協力の呼びかけ

**調査期間** : 2020年9月1日(火) 10時頃～9月13日(日) 23時59分迄

**回答数** : 62件

**協力団体** : 公益社団法人 日本環境教育フォーラム(JEEF)  
一般社団法人 日本アウトドアネットワーク(JON)  
NPO法人 自然体験活動推進協議会(CONE)

※なお、国立の施設については（独）国立青少年教育振興機構に拡散の協力を得た。

# 主な調査結果

## 1. 今夏、回答した団体のうち7割超がキャンプ事業を実施

- ➡最も回答が多かったのは、「計画していた事業の多くは延期・中止となったが、予定通り(あるいは予定を変更して)実施した事業もある」であり、3割を超えた。また、7月版の調査でも、この項目の回答が最も多かった。
- ➡7月版の調査と比較すると、「予定通りすべての事業を実施した」割合が増加した。(1団体、1.1% → 5団体、8.1%)

## 2. 日帰り・1泊2日事業は、多くの団体が感染拡大前の計画通りに実施

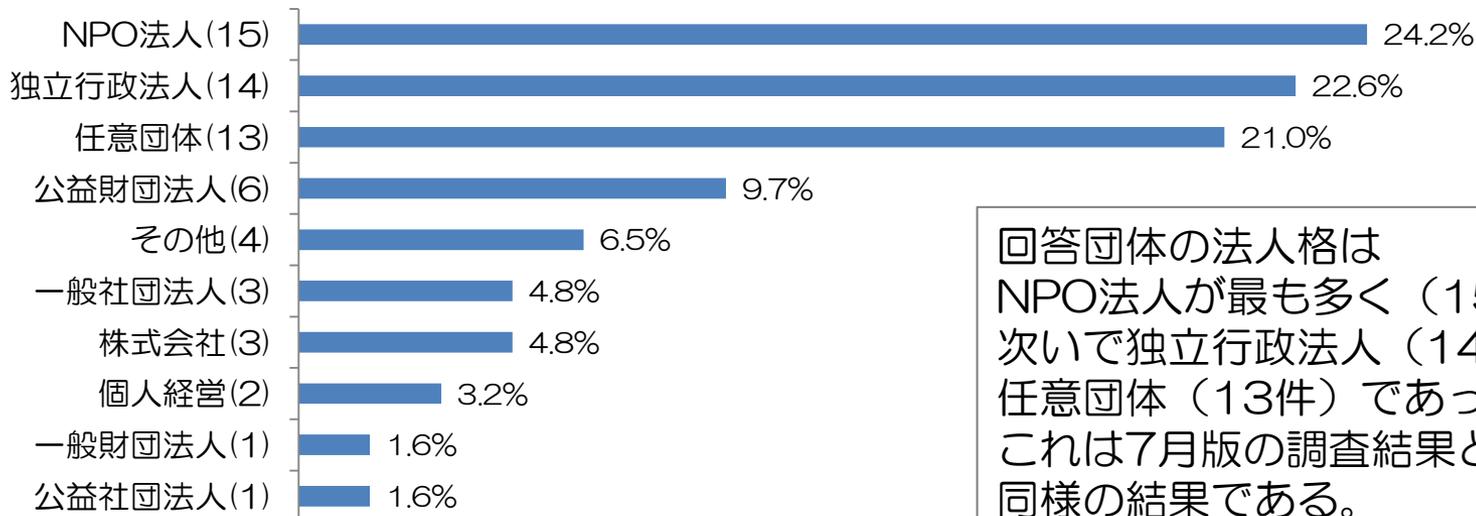
- ➡日帰り・1泊2日は感染対策が徹底しやすいことなどが要因として考えられる。
- ➡7月版の調査と比較すると、5泊6日以上を除き全ての事業の中止率が下がっていた。

## 3. キャンプ非実施の団体の割合が増加

- ➡「計画していたすべての事業を実施しなかった」と回答したのは12団体(19.4%)であった。なお、7月版の調査では「予定していたすべての事業を実施しない」と回答したのは、11団体(12.6%)だった。

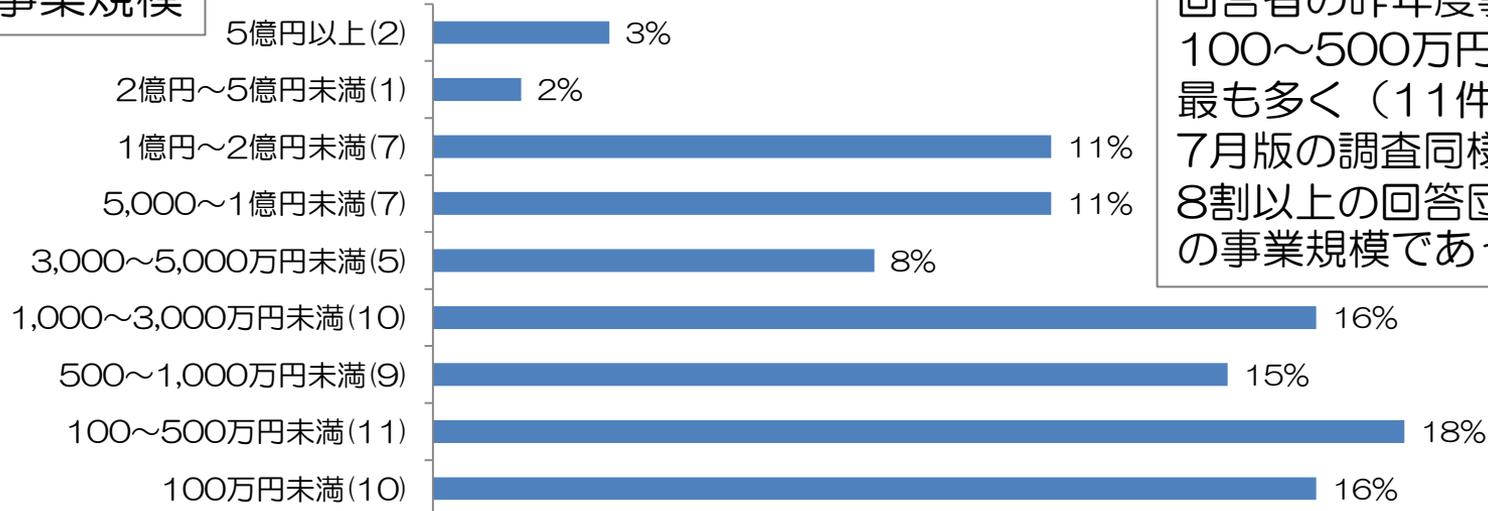
# 回答団体属性（回答数=62件）

## 法人格



回答団体の法人格はNPO法人が最も多く（15件）、次いで独立行政法人（14件）、任意団体（13件）であった。これは7月版の調査結果と同様の結果である。

## 事業規模



回答者の昨年度事業規模は、100～500万円未満が最も多く（11件）、7月版の調査同様、8割以上の回答団体が1億円未満の事業規模であった。

# 法人所在地（回答数=62件）

## 近畿地方：11団体

大阪府：5団体 滋賀県：2団体  
兵庫県：2団体 奈良県：2団体

## 中国・四国地方：5団体

岡山県：2団体 島根県：1団体  
山口県：1団体 徳島県：1団体

## 九州・沖縄地方：6団体

長崎県：1団体 福岡県：1団体  
熊本県：1団体 佐賀県：1団体  
沖縄県：2団体

## 北海道・東北地方：8団体

北海道：3団体 宮城県：2団体  
福島県：2団体 岩手県：1団体

## 関東地方：10団体

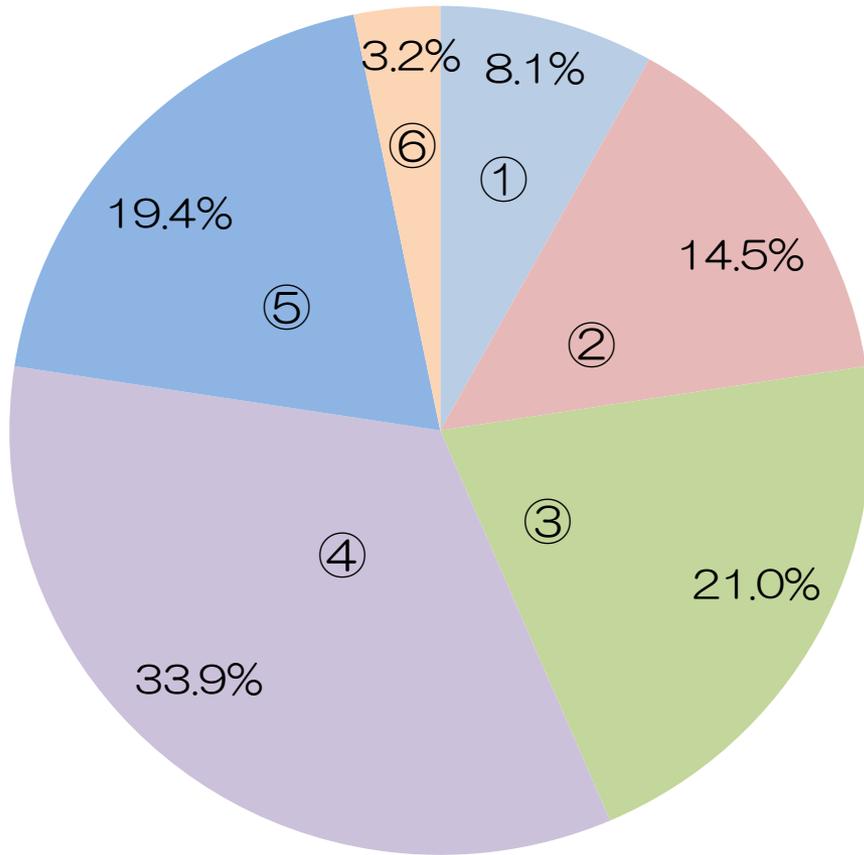
千葉県：1団体 群馬県：2団体  
茨城県：1団体 神奈川県：1団体  
栃木県：1団体 東京都：4団体

## 中部地方：22団体

福井県：9団体 愛知県：3団体  
岐阜県：2団体 石川県：3団体  
長野県：1団体 富山県：1団体  
静岡県：3団体

全62団体

# 本年度夏季キャンプ事業の実施について



- ① 予定通り全ての事業を実施した  
(5団体、8.1%)
- ② 計画を変更するなどして全ての事業を実施した  
(9団体、14.5%)
- ③ 計画している事業の多くは予定通り(あるいは予定を変更して)実施予定だが、延期・中止となった事業もある  
(13団体、21.0%)
- ④ 計画している事業の多くは延期・中止となったが、予定通り(あるいは予定を変更して)実施する事業もある  
(21団体、33.9%)
- ⑤ 計画していたすべての事業を実施しなかった  
(12団体、19.4%)
- ⑥ 当初からキャンプ事業を実施する計画がない  
(2団体、3.2%)

キャンプ事業を**実施した**と回答したのは **48**団体(77.4%)

キャンプ事業を**実施しなかった**と回答したのは **14**団体(22.6%)

7月版の調査に続き最も多いのは「計画していた事業の多くは延期・中止となったが、予定通り(あるいは予定を変更して)実施した事業もある」だった。

# 予定していた事業の実施・中止

新型コロナウイルス感染拡大以前に計画していた事業数と、アンケート回答時(9月上旬)の事業数を調査、比較した。

中止率 = (実施予定数 - 実施数) / 実施予定数

単位：団体 n=62

形態	分類	拡大以前	回答時	中止率	事前調査時(7月版)
日帰り	実施	34	35	-	5.1%
	非実施	28	27		
1泊2日	実施	33	32	3.0%	23.9%
	非実施	29	30		
2泊3日	実施	26	16	38.5%	46.4%
	非実施	36	46		
3泊4日	実施	17	10	41.2%	51.6%
	非実施	45	52		
4泊5日	実施	10	3	70.0%	76.5%
	非実施	52	59		
5泊6日 以上	実施	19	4	78.9%	75.6%
	非実施	43	58		

▼実施期間を変更するなどして、感染拡大前の計画時とほぼ同数の団体が、日帰りや1泊2日の事業を実施した。

# 日帰り事業実施数の詳細

計画時の予定				今夏の実施数			
実施数	団体数	割合(n=48)		実施数	団体数	割合(n=48)	
0本	14	29.2%	↘	0本	13	27.1%	
1本	6	12.5%	↘	1本	4	8.3%	
2本	5	10.4%	→	2本	5	10.4%	
3本	5	10.4%	↘	3本	2	4.2%	
4本	2	4.2%	↗	4本	4	8.3%	
5本	1	2.1%	↗	5本	2	4.2%	
6本	4	8.3%	↘	6本	2	4.2%	
7本	2	4.2%	→	7本	2	4.2%	
8本	2	4.2%	→	8本	2	4.2%	
9本	0	0.0%	↗	9本	1	2.1%	
10本	2	4.2%	↗	10本	3	6.3%	
11~20本	4	8.3%	↗	11~20本	8	16.7%	
41本以上	1	2.1%	↘	41本以上	0	0.0%	

- 「0本」の回答は1団体減少した。1泊以上の事業を日帰り事業に変更して実施された可能性がある。
- 「41本以上」を予定していた団体はなくなったが、10本以上実施の団体は増加している。

# 1泊2日事業実施数の詳細

計画時の予定				今夏の実施数			
実施数	団体数	割合(n=48)		実施数	団体数	割合(n=48)	
0本	15	31.3%	↗	0本	16	33.3%	
1本	11	22.9%	↗	1本	18	37.5%	
2本	6	12.5%	↗	2本	7	14.6%	
3本	6	12.5%	↘	3本	2	4.2%	
4本	3	6.3%	↘	4本	1	2.1%	
5本	2	4.2%	↘	5本	1	2.1%	
7本	1	2.1%	→	7本	1	2.1%	
8本	1	2.1%	→	8本	1	2.1%	
11~20本	2	4.2%	↘	11~20本	1	2.1%	
21~30本	1	2.1%	↘	21~30本	0	0.0%	

- 「0本」の回答が1団体のみ増加だった。つまり1泊2日の事業はほぼ実施された。
- 「1本」と回答した団体が7団体増えていることから、事業の本数は減少していると考えられる。

# 2泊3日事業実施数の詳細

計画時の予定			今夏の実施数			
実施数	団体数	割合(n=48)		実施数	団体数	割合(n=48)
0本	22	45.8%	↗	0本	32	66.7%
1本	9	18.8%	↘	1本	6	12.5%
2本	8	16.7%	↘	2本	6	12.5%
3本	2	4.2%	↗	3本	3	6.3%
4本	3	6.3%	↘	4本	0	0.0%
5本	1	2.1%	↘	5本	0	0.0%
6本	1	2.1%	↘	6本	0	0.0%
10本	1	2.1%	→	10本	1	2.1%
21~30本	1	2.1%	↘	21~30本	0	0.0%

- 「0本」の回答が10団体増加し、中止率は38.3%にのぼる。つまり2泊3日の事業を計画していた団体の1/3以上が事業を中止している。
- 7団体が「4本」以上を計画していたが、実際に実施した団体は1団体のみであった。

# 3泊4日事業実施数の詳細

## 計画時の予定

実施数	団体数	割合(n=48)	
0本	31	64.6%	↗
1本	6	12.5%	↗
2本	3	6.3%	↘
3本	5	10.4%	↘
10本	1	2.1%	↘
11~20本	2	4.2%	↘

## 今夏の実施数

実施数	団体数	割合(n=48)	
0本	38	79.2%	
1本	8	16.7%	
2本	1	2.1%	
3本	1	2.1%	
10本	0	0.0%	
11~20本	0	0.0%	

- 「0本」の回答が7団体増加し、中止率は41.2%である。
- 「2本」以上の回答が8団体減少しており、事業数の大幅な減少が見て取れる。

## 4泊5日事業実施数の詳細

### 計画時の予定

実施数	団体数	割合(n=48)
0本	38	79.2%
1本	7	14.6%
2本	2	4.2%
3本	1	2.1%

### 今夏の実施数

実施数	団体数	割合(n=48)
0本	45	93.8%
1本	3	6.3%
2本	0	0.0%
3本	0	0.0%

- 4泊5日の事業は、8割近いの団体が実施の計画がなかったが、実施予定であった団体が10団体から3団体に減少し、中止率は70.0%となった。

## 5泊6日以上事業実施数の詳細

### 計画時の予定

実施数	団体数	割合(n=48)
0本	29	60.4%
1本	17	35.4%
2本	2	4.2%

### 今夏の実施数

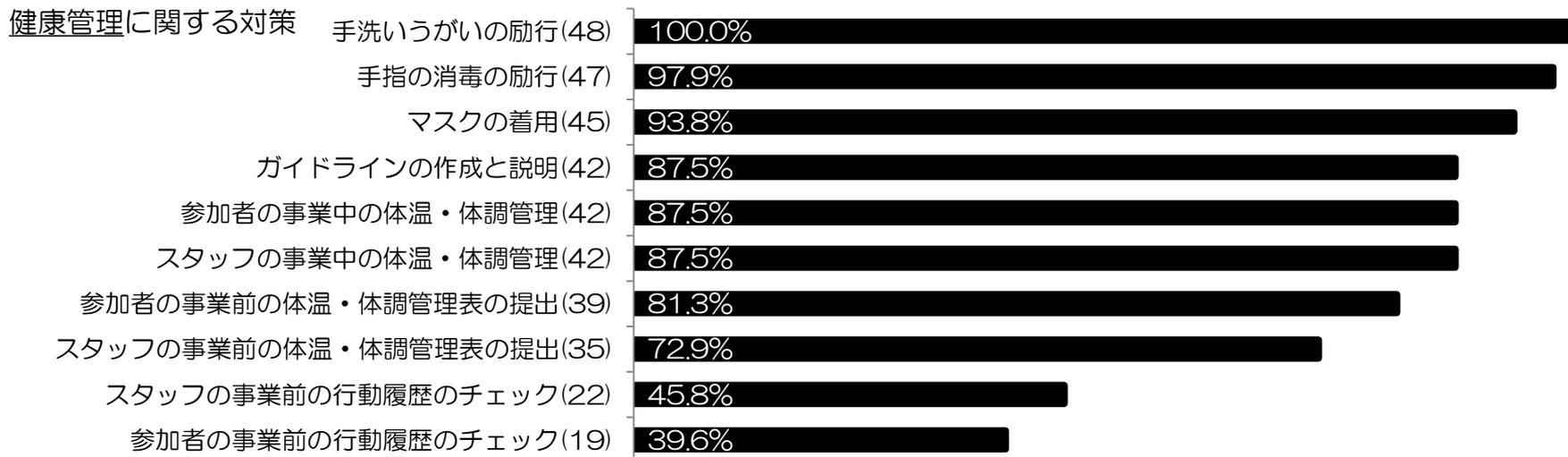
実施数	団体数	割合(n=48)
0本	44	91.7%
1本	4	8.3%
2本	0	0.0%

- 4割近い団体が実施を予定していたが、そのうち15団体が実施せず、中止率は78.9%にのぼる。
- この中止率は、夏前の調査を合わせても最も高い割合となった。

- 取り組み形態などを考える(見直す)いい機会になった。
- 日帰りプログラムのみの実施でしたが、積極的な親御さんは他団体のキャンプに参加すると考えたので、参加対象の地域を限定して、なるべく抵抗が少なく参加してもらえるように心がけた。
- 11泊12日の長期プログラムを県内在住の子に限定して実施できただけでも良かった。
- 実施するか判断には迷いがあったが、参加者からお礼等の言葉をいただき、結果的に無事実施できてよかった。
- 家族単位であれば、他家族との三密を避ける活動を実施することができたと感じる。
- コロナ対応に配慮して事業を実施することに、ある程度慣れた。
- 子ども同士の密接は避けきれない。
- コロナの影響により参加者減もあったが、なんとか実施できた。対策は行ったが、熱中症対策もあり、難しい面も多かった。
- 実施すること自体は可能だったが、参加者が集まらない可能性があった。
- 収入が大幅減(9割超)のため、今後の運営における不安はまだ大きい。
- コロナウイルス感染拡大の予防のために様々な備品を準備したり、スタッフと対応を共有したりすることに使う労力が大きく、疲弊した。
- 感染症予防対策について、ガイドラインを策定し受け入れを進めてきたが、不安は常にある。だからこそ、日々のスタッフ一人ひとりが手洗い・消毒・マスク着用などの生活リズムを心がけることが重要だと感じている。
- 実施することに不安はあったが、実施をとおして感染症対策の具体化が進み今後の事業展開の前例となれたことは大きな収穫であり、子どもたちの心の健康と体験を守る必要性をあらためて確認できた。
- 感染予防としての備品、消耗品などの予算支出が大幅に増えた。  
政府や大阪府の発表があるごとにキャンセルが発生した。(その場合キャンセル料金はなしで対応した)

キャンプ実施団体が講じた対策について

# 本年度夏季、キャンプを実施する団体が、キャンプ参加者、及びスタッフの<健康管理>について講じた対策



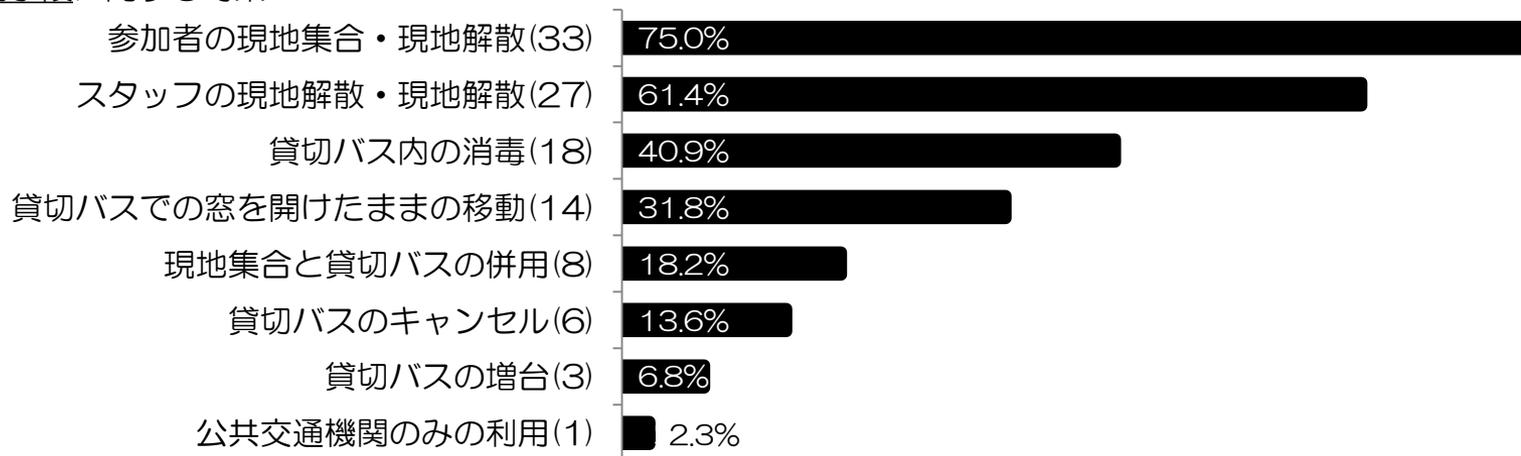
回答団体数=48

## その他の<健康管理>に関する対策の自由記述（一部）

- 参加者に対して感染症対策に関わる同意書の提出
- 国のガイドラインに沿って、さらにキャンプという点でのガイドラインも考え、実行しました。
- スタッフは日々体温、体調を記録。マスク着用の他、状況に応じフェイスガード、ポータブル拡声器を使用し、飛沫感染を予防。施設マニュアルに沿って、施設内の消毒・換気を実施。
- 所独自のガイドラインに沿って活動を行い、利用者に対しては、14日前からの体温を記録してもらっている。
- 宿泊施設の消毒箇所すべて印をつけ、子どもたちが消毒できるようにした。
- 事業細案に、消毒箇所の担当者や体調管理責任者を明記し、感染予防に努めた。
- 参加者を県内限定、リピーターのみ一般公募なし
- パーテーションの購入

# 本年度夏季、キャンプを実施する団体が、キャンプ参加者、及びスタッフの<移動手段>について講じた対策

## 移動手段に関する対策



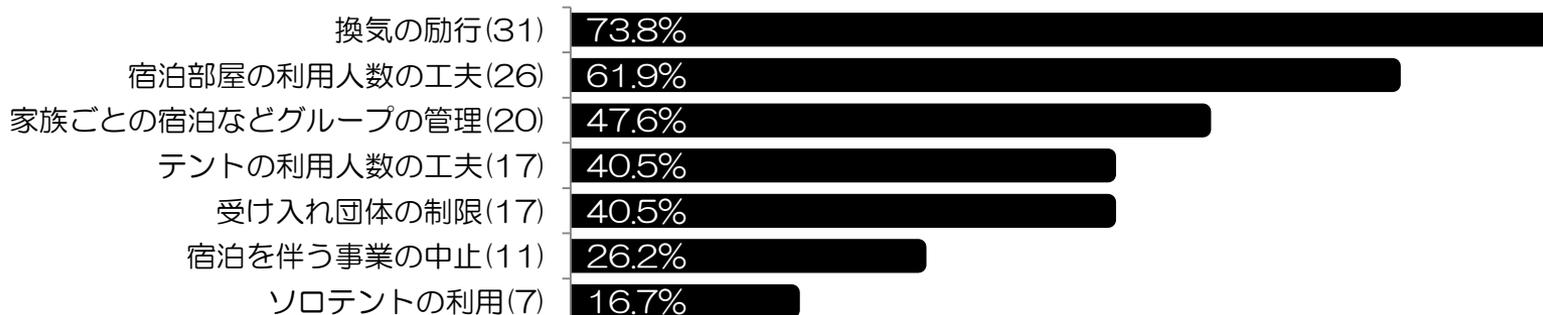
回答団体数=44

## その他の移動手段に関する対策の自由記述（一部）

- ・園からの依頼で実施する事業は、園バスを3台使い、間隔を空けて乗車してきてくれるなどの対応があった。園外保育のお手伝いには、移動面で大きな課題が残る。
- ・貸切バス内でのマスク着用、必要以上のスキンシップを行わないお約束の徹底。
- ・現地到着時の靴と荷物の消毒、キャンプ場外に買い物に行く際にはスタッフユニフォームを着用しない。
- ・参加者の移動については保護者の自家用車での移動を推奨したが、大学生ボランティアの移動については公共交通機関での移動をやむをえず認めたため、各人に移動時の留意事項についてもっと周知すべきだった。
- ・バス会社に確認し換気などに問題ないということでした。シートに並んで座らないように参加者は両窓側のみに座る人数で募集しました。またバス内ではおしゃべりはしないということでビデオをみて過ごしました。初めて観た子も久しぶりだった子もいたようで好評でした。酔う子ども用ということもあったのですが酔う子もいなくよかったです。

# 本年度夏季、キャンプを実施する団体が、キャンプ参加者、及びスタッフの<宿泊>について講じた対策

## 宿泊に関する対策



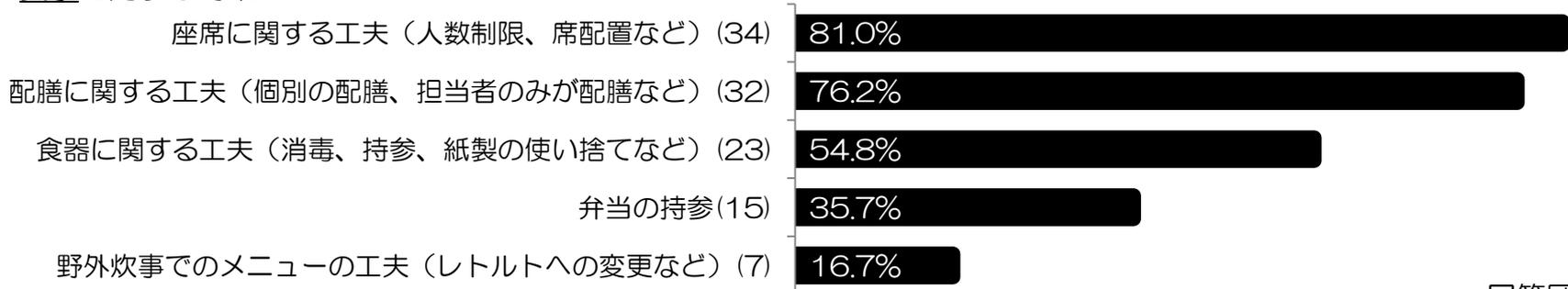
回答団体数=42

## その他の<宿泊>に関する対策の自由記述（一部）

- 使用するベッドをグループ分けして連続使用にならないよう対策を講じた
- 受け入れ団体は同日程1団体限定とする。
- テント泊は、三つの密が生じないようにできるだけ2m目安に間隔を空ける。一張のテントを1人で使用する。
- 通常定員の半数とした。1日定員10人。課題＝収益性がほとんどない。
- 大学生対象の指導者養成事業であり、指導者も含め、テントは一人1張りずつ振り分けました。
- 7人テントを3人で使用した。
- 1家族1部屋や1テントとした。
- 各担当市の指示に従い、利用定員の削減を行った。
- あらかじめ施設で決められた人数に沿って定員の半分の人数で両隣に2段6ベットですがジグザクで使えるベットが指定されていました。
- 「一人でできるかな？」をテーマにテント泊もソロで実施した。
- 工作道具など、物品の貸し借りを行わず、各自家庭からの持参をお願いした。

# 本年度夏季、キャンプを実施する団体が、キャンプ参加者、及びスタッフの<食事>について講じた対策

## 食事に関する対策

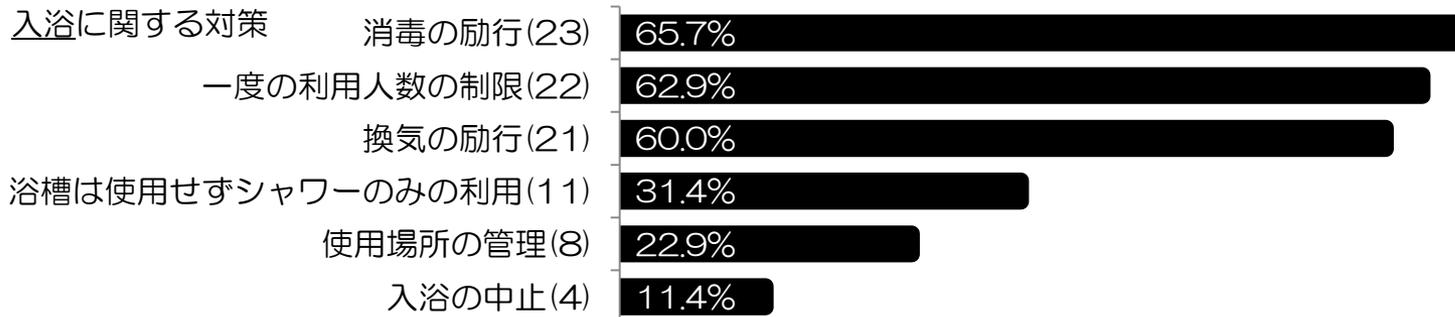


回答団体数=35

## その他の<食事>に関する対策の自由記述（一部）

- 極力、レジャーシートなどを持参してもらい、個々で間隔を空けて座ってもらうよう声かけ等をしてきた。しかし、幼児では移動してしまうこともあり、徹底できなかったケースもある。
- 対面着席を禁止。
- 食事はすべて風通しの良い野外。
- 食器類の消毒、配膳時の手袋の着用。
- 配膳するスタッフの固定化。
- 「基本バイキング食だが、少人数の場合は皿盛」「食事時間の調整(他団体と重ならないようにする)」
- 弁当業者による配送。
- ファミリーキャンプでは夕食は家族毎に作って食べ、朝食はスタッフが作って提供した。
- 野外炊飯は水場もシートで区切られていて、出来るだけ共有のものが出ないように使い捨ての食器でした。野外炊飯場でも食べるときは向き合わず片方を向いて食べました。食堂もビニールシートに囲われていました。ごはんとお茶は例年は自分で入れていましたが大人スタッフで決めた人が担当しました。施設での対策に沿って行いましたが食事中的会話禁止なので静かな食事に耐えられずCDをならしました。

# 本年度夏季、キャンプを実施する団体が、キャンプ参加者、及びスタッフの<入浴>について講じた対策



回答団体数=42

## その他の入浴に関する対策の自由記述（一部）

- 利用時間の延長。
- 浴室から椅子・洗面器の撤去（滞在時間削減の効果、道具共有を削除）。シャワーは、壁側設置分のみ稼働、対面型は使用不可とした。
- 利用者が一定時間に集中し混雑しないように調整の工夫をした。
- キャンプ場ではシャワー室を利用することになっており、シャワーは個別のブースにわかれているので、その点は安心でした。脱衣所内の人数をコントロールして、密集しないよう気をつけました。
- 入浴前の消毒、入浴している間に脱衣場の消毒、浴室内であまりしゃべらないように。
- 入浴の代わりに希望者だけ野外でドラム缶風呂。
- 団体ごとでの入浴時間を設定した。
- 他団体との接触がないように時間割により厳密に管理した。
- 他団体が交わらないように入浴時間を設定した。
- 「入浴時間の調整(他団体と重ならないようにする)」
- 利用人数を制限 1 m以上の感覚が保てるように指導。
- 施設の感染対策に合わせました。使う棚を決めて使いました。

# その他の取り組みの**成果**や**課題**

- 日常的なプログラム備品（ライフジャケットやパドル、プログラム艇）への消毒の実施。集合形式での朝の集いの実施取りやめ、集合・密になる状態を作らないように配慮。
- 各所にコロナウイルス感染予防を促す表示をした。流し場、玄関、部屋の前など。目にするものの効果はあった、と感じている。
- つどいやキャンプファイヤーの際、全員で歌唱することを避けたり、接触が多くなるレクゲームを実施しない事等の対策を取りました。
- 本番前の現地入りまでの企画会議はすべてオンラインで実施、スタッフ全員に消毒液を配布。
- フェイスシールドの活用、熱中症対策、キャンプファイヤーを馬蹄形にし、間隔をあけて実施。
- ふりかえり時、マスク着用が必須で、声の小さい子どもは聞こえづらく、何度か指摘をされていた。1つのいい経験ではあるが、マスクがなければ起きなかった事例と感じた。
- 非接触型体温計を購入し、受付時に検温した。

## 新型コロナウイルス感染に関して**危機感の高まった**事例や、**他団体に共有することが有益**と思われる事例

- スタッフが個包装ではないお菓子を購入した。
- スタッフミーティング時にしゃべる際にマスクをはずす。
- 事業中にマスクかぶれの参加者が発生し、顔中に湿疹ができた。急遽、フェイスシールドを提供した。
- 体調不良の事前チェックをしたことでスタッフの確定が遅れる(直前になる)不具合があった。
- 事案発生時の対応マニュアルの事前作成は有益でした。
- 検温の結果、発熱の症状が見られ、すぐに別室に隔離、使用していた部屋の消毒、保健所への連絡と対応を仰ぎ、保健所担当者と当事者の体調確認を電話で行った。保健所からは疑いはないとの事であったが、その後病院で受診し帰宅。

キャンプ非実施団体が  
事業を実施しない判断を下した要因について

# 非実施の「夏を终えて」率直な感想

- 収入はないが、施設の維持管理費は変わらず必要なので、財政的問題が大きい。
- 今年度実施しないことで、来年度キャンパーが戻ってくるかが心配。
- 実施している団体もあるので、出遅れた感もある。
- 感染拡大防止の観点からやむを得ない状況だと感じる。
- 何も出来ないという結果になってしまった
- まだまだコロナウイルス自体も解明されない中、初めての夏を迎えましたが、感染拡大防止もいまだ身に付いていない状態もあり中止せざるをえなかったのは残念でした。
- 主催事業を開催しなかっただけでなく、施設利用も大幅に減少、経営面では深刻な問題です。
- コロナ対策が十分実施できる環境が作れなかった。分からなかった。
- 個人的には、事業を実施できなかった事は残念だが、当施設の周囲の状況では仕方がないと考えている。
- 命に関わることであり、とても残念ではありますが実施出来ないのは致し方ないと感じています。
- 何かできたのではないか（したかった）という思いもあるが、現実的には無理だったとも思います。今年は仕方なかったと言いつまがせている感じです。
- 毎年楽しみに参加されている方の期待にこたえられなかったのがつらかった。
- 実施予定であった8月の状況を見ると、東京を含む関東圏から集まった参加者が感染者のいない地方に行き、数日間の宿泊をするということが、小さい団体の労力で安全に出来たとは思えないので、中止の判断はよかったと思っている。その分オンラインコンテンツの充実ができた。しかし、今年の指導経験が積めなかったスタッフ陣が来年どの程度の実力を持って夏を迎えることができるのかは不安が残るところ。
- 残念です。子どものためのキャンプ是非実施したいです。

## 非実施団体が事業の延期・中止を判断した理由として、 キャンプ参加者及びスタッフの〈健康管理〉に関する要因

- 事前2週間に検温をしたり当日検温しても、もしかしたら陽性者が含まれているかもしれないと心配。
- 団体内で濃厚接触者が出てしまった
- 地域差もあるかと思いますが、沖縄では4月～6月（3か月間）は感染者0が続いていましたので8月のキャンプは実施可能と考え準備を進めていましたが、7月に入り尋常じゃない感染者が出たこともあり、8月「山の日キャンプ」を断念せざるしかないと判断しました。参加希望者やスタッフが感染したという事は無いのですが、収束する様子は無かったです！
- 事業中に体調不良が出た場合、暑さによる疲労なのか、コロナなのか、判断が難しい。
- スペシャルニーズ（主に発達障害）を抱えた方のキャンプということもあり、本人の基礎疾患への配慮、高齢家族への感染リスクの回避、学生スタッフのクラスター化へのリスク回避などがあげられる。
- 完全なスクリーニングは不可能であると考えたため。

## 非実施団体が事業の延期・中止を判断した理由として、 キャンプ参加者及びスタッフの〈移動手段〉に関する要因

- 休憩含んで5時間バスで移動することへの懸念。
- スタッフが全員関東から公共交通機関で移動することへの懸念。
- 会場までの移動が公共交通機関を利用すること（密を回避できない）。
- 大勢だとバスになってしまう。
- 参加者は県内の方ですが、キャンプリーダーは大学生で、大阪京都の方もあり、移動自粛がネックであることも要因の一つでした。
- 世論に十分な説明ができないから。
- 集合場所から開催地までは貸切バスの移動を予定していました。遠いところでは、4時間かかります。密を避けることだけを考えれば、他のやり方もありますが、費用面で現実的ではなかったです。
- 現地集合解散が不可能な地方が開催地であったため。バスを増やして移動する経済的な余裕もないため。

## 非実施団体が事業の延期・中止を判断した理由として、 キャンプ参加者及びスタッフの〈宿泊〉に関する要因

- キャビンに布団を並べるが、安全な距離を確保することが難しい。
- スタッフ用キャビンが狭い。
- 宿泊を予定していた場所が3密を避けられない。
- 寝ている時は必ず長時間一緒にいなければならない。
- 個室を確保できない、集団の場合の消毒の実施、効果が厳しいと判断。
- 子どもたちの社会的距離を保たせる事が困難（低学年）、マンパワー不足。
- 宿泊になると、着がえや寝具など、注意すべき点（リスク）が増える。
- スペシャルニーズを抱えた方の受け入れにあたって、密なかかわりを避けることやマスク着用が難しいキャンパーへの対応などを求められた。
- 例年は6～8人ごとのテント泊。テントの数を増やすこともできたが、上記の理由で中止が決定した。

## 非実施団体が事業の延期・中止を判断した理由として、 キャンプ参加者及びスタッフの〈食事〉に関する要因

- 調理場が狭い、空調を安全な状態に維持することが難しい。
- 基本的にグループ単位で大皿から取り分けて食べるので、その形式は取れない。個別配膳をするには、スタッフの人数を増やさないといけない、そうするとより密集する状態となってしまう。
- 消毒なもちろんですが対処できることが少ない。
- 3密にならないことで、調理、盛り付け、片付け時は特に課題が多かったため
- 炊事はハードルが高い（手指消毒など衛生面の徹底、マスクの着用、取り分けなど、  
現実の子どもの動きを考えると、ガイドライン策定が難しい）
- 食事介助が必要なキャンパーもいるので、食事時の密が避けられない。
- 野外炊事、生還パーティー

## 非実施団体が事業の延期・中止を判断した理由として、 キャンプ参加者及びスタッフの〈入浴〉に関する要因

- 時間差入浴等が他団体との調整で困難
- マスクをするや分けてはいるにも限界がある
- 野外活動センターではシャワーのみとしても、脱衣場の狭さが問題
- 制約が守れない
- 入浴介助が必要なキャンパーもいるので、脱衣や入浴中の密が避けられない、

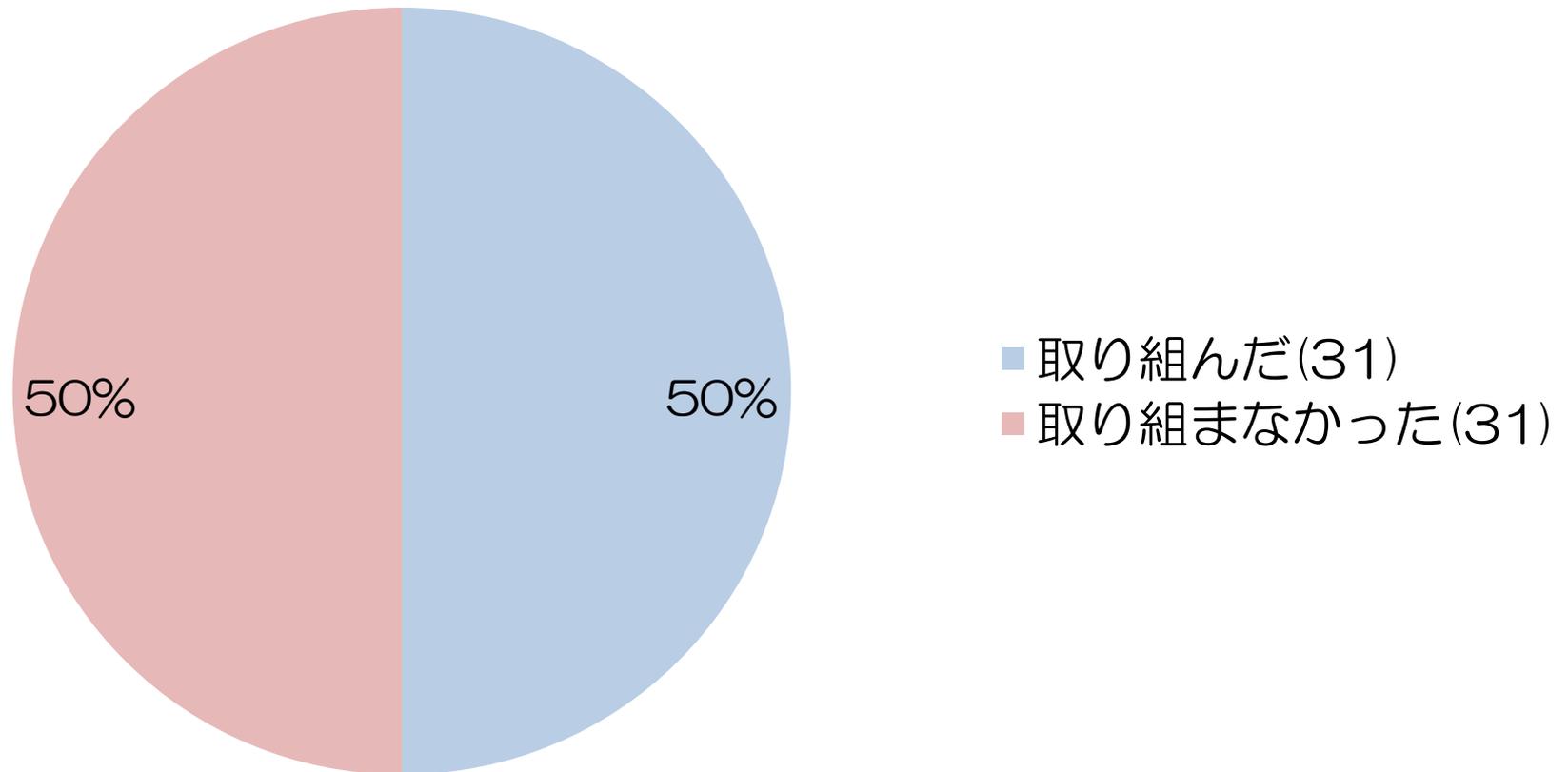
## 非実施団体が事業の延期・中止を判断したその他の要因

- 地元の町で感染者が出ていない。高齢人口も高い町なので、何かあった場合の今後は心配した。
- 講師（指導者）の確保が困難。
- 親御様を安心させること後できなかった。
- コロナウィルス感染症への対応で宿泊の場合、参加者に納得してもらえる手法が確立できなかった
- 再度、感染が拡大し始めたこと。ガイドラインの徹底も含め、カウンセラーへの研修ができなかった。
- 感染が発生した場合、その後の再開に大きな影響が生じ、風評被害も踏まえ、慎重に判断した。  
参加を心待ちにしているキャンパーや学生ボランティアスタッフに安心して参加していただける体制が整うまでは辛抱するしかない。
- 何よりも、感染者の出ていない地域で、人の出入りも少なく、住民のほとんどが高齢者という田舎地域が例年のキャンプ開催地であるので、地域住民の方々に不快感や不安を与えるようなことは（今後の関係性も鑑みて）出来ないという判断をし、例年通りのキャンプは中止、という判断となった。  
小さな団体なので、大きな組織のような万全の準備をするような余裕もなく、無理に実施するよりは、という感じです。地域限定の事業は今後様子を見て開催されるかもしれないが、未定です。

# オンラインでの取り組みについて

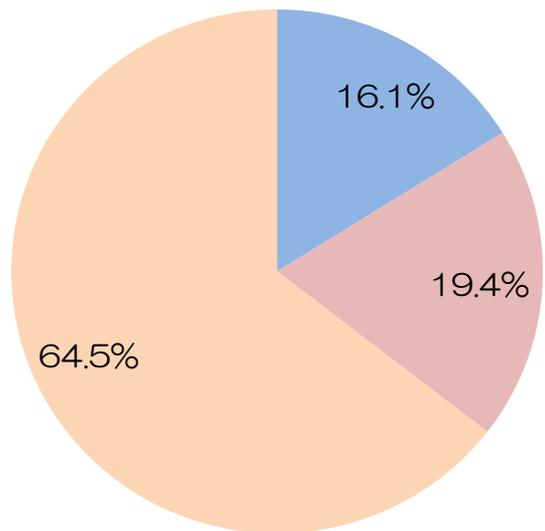
Q.今夏、オンラインでの取り組みをしましたか？

※ブログやニュースの発信、動画配信、オンラインイベントなど

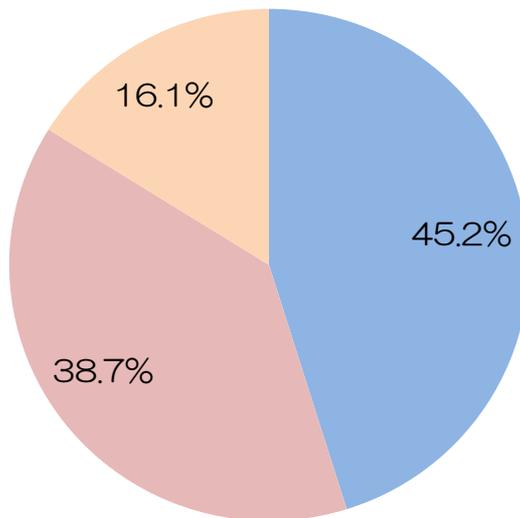


# オンラインでの取り組みの内容

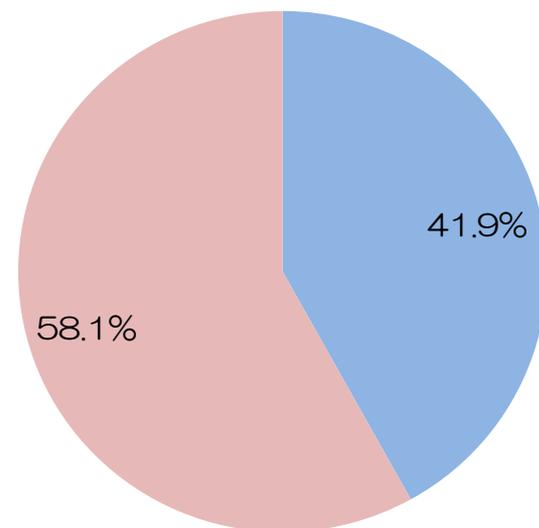
ブログや  
メールニュースなどの配信



動画配信



オンラインイベント



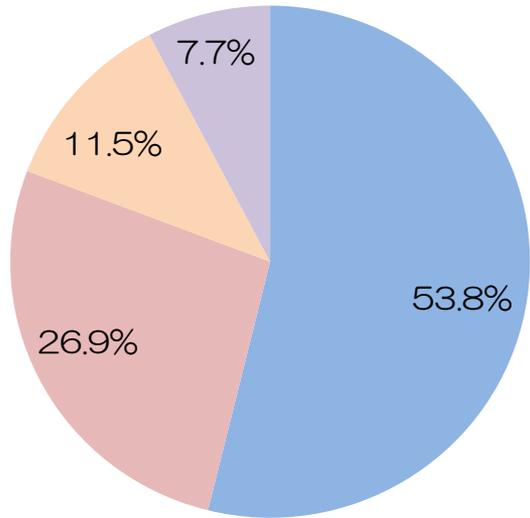
オンラインでの活動を  
実施している団体数=31団体

- 実施していない
- 新型コロナウイルス感染拡大を機に実施している
- 新型コロナウイルス感染拡大以前から実施している

- ブログやメール配信は6割超の団体が新型コロナウイルス感染拡大以前から実施していた。
- 動画配信は、約半数が実施していないという回答になったが、4割近い団体が新型コロナウイルス感染拡大を機に実施を始めた。
- オンラインイベントは感染拡大以前から実施している団体の回答はなかったが、新型コロナウイルス感染拡大を機に広がりを見せ、半数以上の団体が実施を始めた。

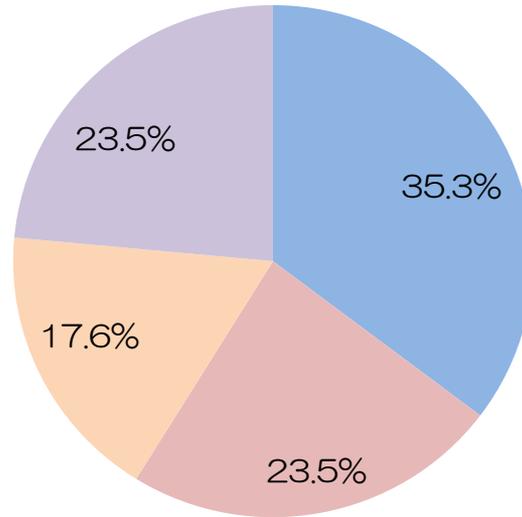
# オンラインでの取り組み実施頻度

ブログや  
メールニュースなどの配信



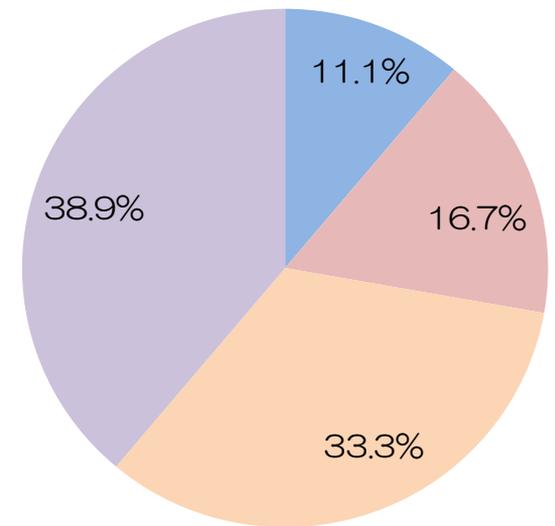
実施団体数=26団体  
オンラインの取り組み実施団体の83.9%

動画配信



実施団体数=17団体  
オンラインの取り組み実施団体の54.8%

オンラインイベント



実施団体数=18団体  
オンラインの取り組み実施団体の58.1%

■ 週に1回以上 ■ 半月に1回以上 ■ 月に1回以上 ■ その他

- ブログやメールニュースは31団体中26団体（8割以上）の団体が実施しており、半数以上の団体が「週に1回以上」実施していた。
- 動画配信・オンラインイベントは、オンラインの取り組み実施団体の半数以上が実施していた。
- 動画配信は、3割以上の団体が、「週に1回以上」実施していた。
- オンラインイベントは「不定期」の回答が多く、「その他」に分類した。

## 《ブログやメールニュースなどの配信》

- 日々のキャンプ場の様子、自然の景色などの配信。
- ユースボランティアリーダー活動の報告や新規募集の告知など。
- 教員免許状更新講習の実施報告ブログ
- 近場での、休日の過ごし方の提案。
- 参加した子どもの動画、写真を見て、保護者が楽しさを共有できた。
- 大学生スタッフからのメッセージ。
- 自然や生きものの様子など
- マスメディアに取り上げられたときの。
- コロナがおわったらしたいこと・イベントの告知
- トピックスでの掲出

## 《動画配信》

- 緊急事態宣言期間中のキャンプファイヤー動画配信。
- 自然系のレクリエーションなど
- そのまま事実が伝わる場所。
- キャンプサイトを歩いているように作った動画。キャンプ場上空のドローン映像。
- 視聴回数が多いのは「焚き火講座」、いいねの数が多いのは「テントの建て方講座」「キャンプ中の食事メニュー紹介」
- 子どもたちの様子・自然や生きものの様子など
- キャンプ料理動画、簡単手遊び動画、クラフト動画など
- 音楽ライブ配信

## 《オンラインイベント》

- 自宅に居ながら、お友だちやボランティアリーダーと関わった事。
- オンライン自然観察会オンラインによる紙芝居のライブ上演。
- オンライン参加型キャンプファイヤーの実施。参加型でのライブ実施は、課題もあったが好評をいただいた。
- ポストコロナ時代のニューノーマルを考えるシリーズ
- バーチャルキャンプでキャンプ場の動画を流した。PC操作が必要だから子どもの脇には保護者がいて(写っていないくても)、保護者はキャンプ場内の映像を見ることが減多にないので、喜んでいました。
- オンラインでできるゲームを試してみる。
- スタッフ会議、学生スタッフ会議



アウトリーチ



NCAJ

National Camping Association of Japan

社会の隅々までキャンプを届けよう

公益社団法人日本キャンプ協会 ビジョン2020



## 調査報告監修

第24回日本キャンプミーティング実行委員会 (敬称略・順不同)

野口和行(慶應義塾大学)：実行委員長

熊澤桂子(東京教育専門学校)

中丸信吾(日本女子体育大学)

渡邊直史(プラムネット株式会社アウトドア共育事業部)

佐藤冬果(筑波大学大学院)

## 調査に関するお問い合わせ先

公益社団法人日本キャンプ協会

担当：高橋宏斗 Mail: takahashi@camping.or.jp

Tel: 03-3469-0217 FAX: 03-3469-0504